

地域と連携した人権尊重のまちづくり

「伝統ある「人権劇」と「ふるさと人権フェスティバル」への取り組みを通して



徳島県阿南市の南部、海部郡との境に位置する福井町は古くから「人権の町」として知られている。福井町は地域の先人の熱い思いを受け継ぎながら、「人権尊重のまちづくり」をめざして地域と学校が連携した取り組みを展開している。特に特色ある取り組みとして、「ふるさと人権フェスティバル」と「人権劇」がある。本稿では、これらの取り組みを紹介する。

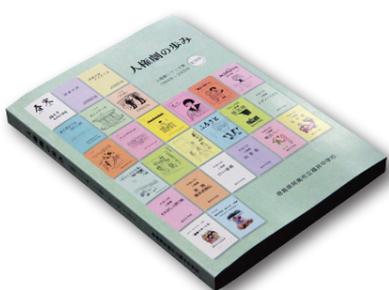
28年にわたる「人権劇」の取り組み

阿南市においては、同和問題を柱としたあらゆる人権課題を解決していく人権教育・啓発を、各地域で取り組んでいます。こうした取り組みに対し、今回、全国人権教育研究協議会の全国広報誌である『であい』8月号の「人権のまちをゆく」のコーナーにおいて、福井町の取り組みが掲載されましたので、その全文を紹介します。

福井中学校のユニークな取り組みとして長年にわたる「人権劇」活動がある。今から28年前に「差別をなくそう」と立ち上がった学習会に参加する6人の生徒たちと、支え合う生徒を合わせて約20人で人権劇第1作「春寒（はるかん）」が制作された。「人権侵害に気づかず見過ごしていないか。部落差別はどうにもならないことあきらめて

ル」のなかで堂々と披露することができた。短期間ではあるが、人権劇に関わるスタッフ全員が完成をめざし、心をひとつにして取り組むことで達成感や成就感を味わうことができた。この夏休みに28作目のシナリオが完成する予定である。

公演当日は、多くの市民をはじめ保護者、小・中学生が鑑賞し、多くの方より賞賛の言葉をいただいた。生徒のなかには親子二代にわたって人権劇出演という生徒もあり、強力なサポートを受けている。昨年、これまでの人権劇26作のシナリオをまとめたシナリオ集「人権劇の歩み」を出版した。また、1作目からすべてDVDで映像として残している。そしてこれらは毎年、町内の人権教育地域座談会の資料として活用されている。



シナリオ集「人権劇の歩み」

このシナリオ集について徳島新聞の「読者の手紙」に投稿されていたものを紹介する。

福中生らの人権劇に敬意 阿南市民

福井中学校は26年前から毎年、人権劇を制作して町や市の大会で発表しています。先頃、全26作のシナリオ集が発刊されました。大作で読み切るまでに一ヶ月かかりました。どの作品も啓発に大きな力を発揮する力で、感心しています。生徒さんや先生方のご努力に、心から敬意を表します。

昨今、同和問題を素通りする人権教育もありますが、福井中の人権劇は常に同和問題を真正面に捉えています。どの作品もパワーがあり感動的で、同和問題は必ず解決できるという確信と、解決してみせるといふ決意が感じられる作品になっています。

支部大会に数回参加させてもらいました。「僕は中学に入学すると人権劇に参加します」と小学生が大きな声で発表。母親からは「ふと気が付くと、身を乗り出して夢中になっている自分に驚いた」。高齢者からは「差別の醜さや愚かさに気付き、人間としてどう生きるか、差別と闘うことの素晴らしさなどを孫の劇で教えられた」という声が聞かれました。今年も、中学生がどんな劇を見せてくれるか期待し楽しみにし、三三五五、町民が公民館に集う。福井町では人権劇によって、人権尊重が文化として位置づきつつある。誇らしいことです。

2011年1月27日 徳島新聞の読者の手紙より抜粋

いないが」と、劇の上演を通じて訴えた。わずか6人から始まった人権劇が、今では福井中学校の誇りとなっている。題材については毎年変わるが、人権劇が始まった当初の熱い思いは先輩から後輩へと受け継がれている。昨年は第27作目を数え、2年生が上演に向けて2週間前から練習に取り組み、身元調査お断りワッペン運動を題材とした「思いよつながら」と題した劇を「福井町ふるさと人権フェスティバ



▲人権劇第28作「あいうえお」に出演された福井中学校2年生と教職員の皆さん（2011年10月23日：福井公民館にて上演）





福井スペシャル人権ライブのようす。

福井中学校発信の
「ふるさと人権フェスティバル」

福井中学校では以前、教育集会所でそれぞれの学年が寝泊まりし、人権の学習を深める「集会所合宿」を実施していた。この取り組みをさらに福井町民に広げていけないものかと、12年前に「福井町ふるさと人権フェスティバル」を立ち上げた。今までは教育集会所を中心に開催されてきたが、一昨年から取り組みを町民全体に広げようと公民館が主体となり実行委員会が組織された。「人権を大切にし、共に助け合うふるさと福井」をテーマとして、園児、児童生徒から保護者、女性、高齢者など多くの住民の参加・協

力を得て開催された。特設ステージでは、保育園児から大人までが参加して手話コーラスや人権なぞかけ等が行われ、さらに阿波踊りの鐘や太鼓、三味線の音が鳴り響く。また屋外テントでは、特別支援学校生徒や小・中のPTA、婦人会によるバザーや特産品販売など、盛りだくさんで活気あふれるものになった。中学生も、出店や人権コントなどで協力した。回を重ねる度に、より多くの人とふれあい、つながり合える大盛況のフェスティバルとなっている。



人権なぞかけのようす。

学校とそれを取り巻く社会が大きく変わろうとしている今こそ、学校・家庭・地域の三者がともに連携し、地域の教育力を生かした取り組みが求められる。福井中学校が毎年取り組む「人権劇」や「人権フェスティバル」への試みのなかで、よりよい仲間づくりが進み、そのつながりが地域ぐるみの人間関係づくりや人権を尊重する町づくりへと発展するよう今後も努力を続けたい。

(文責：福井中学校校長 生杉孝晴)

問い合わせは 人権教育課(☎22-33992)へ

第15回阿南市人権フェスティバル

テーマ 「明るく住みよいまちづくり」

(第13回ふれあいのまちづくりフェア同時開催)

日時 12月4日(日) 10:00~15:00

場所 文化会館(夢ホール)・富岡公民館

記念講演会 13:00~15:00

講師 ㈱香料舎代表 人材育成技術研究所所長

辛 淑玉(しん すご)さん

演題 「人権力を養う」

～災害でみてきたこと～

東北3県で被災地の支援活動を行う中で、外国籍住民、しょうがい者、女性などの社会的弱者が、どのような状況におかれているのかに注意を向け、セーフティネットの網からこぼれ落ちるマイノリティ(少数者)の救済について考えます。



問い合わせは 人権・男女参画課(☎22-3094)へ

＊夢ホール

10:00 開会宣言

人権標語・ポスター・人権作文表彰式

13:30 記念講演会

＊文化会館 前庭

☆人権啓発標語・ポスター優秀作品展示

☆人権絵はがき・人権の花運動ポスター展示

☆人権擁護委員コーナー・男女共同参画コーナー

☆ふれあいのまちづくりフェア作品展

☆バザー・飲食物販売等

☆木造住宅耐震相談所

＊富岡公民館

☆子どものための特設人権相談所 開設

料理教室「クッキー」を作りながらお話ししよう!

☆法務局くらしの相談所 開設

☆手話教室